

研究テーマ: 臨床看護師のフィジカル・アセスメント能力の向上を目指した遠隔教育方法の検討、実行可能性(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A17034)

研究機関: 静岡県立大学経営情報学部、三重県立看護大学

研究の概要:

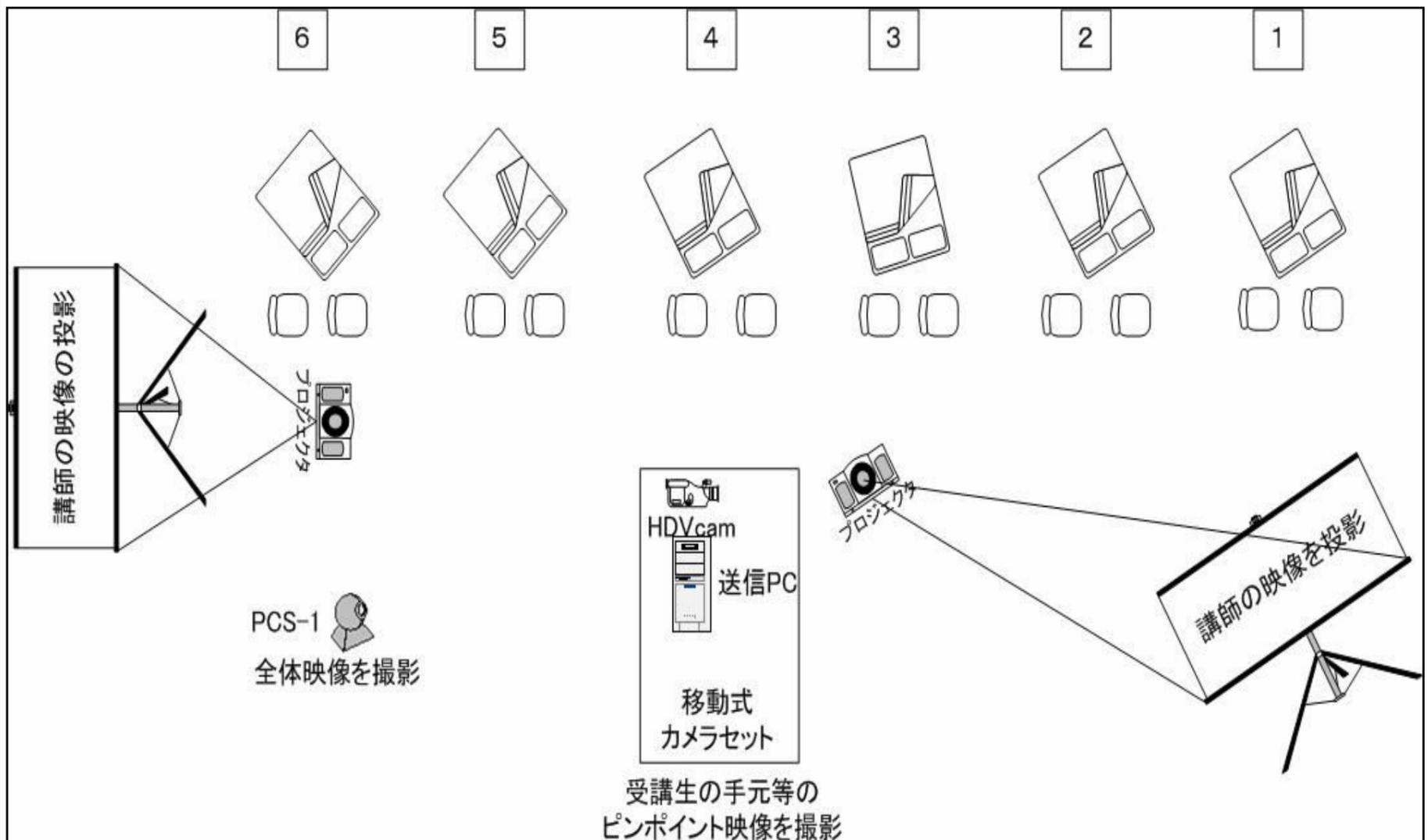
現職看護師を対象とする卒後教育を目的としたフィジカル・アセスメント技術の遠隔実習指導を支援している。2005年12月の第1回試行をもとに、2006年12月に第2回の試行を行った。そこで顕在化した課題を情報通信システムと支援体制それぞれの視点から検討してきた。

研究の目的:

具体的な応用を意識した実験をとおして明確になった課題を克服しつつ、現職看護師の卒後教育支援のシステムの実用化に向けての試みを続けている。と同時に、遠隔教育の中でも必ずしも十分に開拓されていない、動作訓練を主体とする教育を支援する仕組みを、従来の映像を中心にしたものから、音、さらには動作を検知測定する技術を駆使して、客観データを補足情報として活用した遠隔指導方法の開発に目的をシフトしている。

さらに、実験そのものの成果や方法を継承する仕組みも開発している。

実験機器構成:



研究テーマ:臨床看護師のフィジカル・アセスメント能力の向上を 目指した遠隔教育方法の検討、実行可能性(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2-A17034)

研究機関: 静岡県立大学経営情報学部、三重県立看護大学

研究開発成果:

約2年間にわたる実習実験とその評価分析をすすめている。実習実験の結果解決が必要な様々な課題が明確になった。特に従来は視覚情報におもに改善を試みてきていたが、実際に本研究では、打診音など音声情報の品質とともに、映像との遅延が訓練指導に際して大きな障害であることが確認できた。

そのために、今後の取り組みは音を中心に、さらに動作を多角的に表現する情報群を的確に補足するべきか?が重要な研究テーマとなることが確認できた。

プロジェクトのアピールポイント

現職看護師のフィジカルアセスメントスキル訓練を遠隔からの情報ネットワークシステムを活用して指導するという特異な試みであり、顕在化した課題をさらに今後他の動作や音響伝達を必要とする遠隔指導へ発展的に応用が見込める。

プロジェクトの自己評価

(1)研究計画に基づき適切に進められたか

ほぼ、計画通りに実施できた。

(2)今後の課題

映像と音声情報との遅延の影響をどれだけ回避できるか?がもっとも大きな課題である。双方向での通信を前提とする本研究では、通信技術の改善と共に、受講者の心理的な面からの検討も必要であることが明らかになってきた。